



株式会社 エクスブリッジ

PHPの業務パッケージをSystem i5へ ソース公開型の新ビジネスを志向

Start

- LAMP環境で販売管理パッケージを開発
- System iへの移行を検討

Goal

- PHPで自由にカスタマイズできるようなソースコードを公開
- 基幹とWebサービスの連携・融合を目指す

company profile

設立：2004年
本社：愛知県名古屋市
資本金：1億250万円
売上高：6500万円(2007年3月期)
従業員：20名
<http://exbridge.jp/>

LAMP環境のPHPパッケージをSystem iへ

Javaの技術者であった小嶋篤氏が名古屋でエクスブリッジを設立したのは、今から4年前の2004年。当初はJavaのスキルで各種の開発案件を受託する一方、中国オフショア開発を掲げ、人材確保に社長自ら日中間を飛び回る日々が続いた。

中国の天津、南京、上海、ハルピンに信頼できる協力会社を得て確たる足場を築くと、2006年頃からは、独自の基幹業務パッケージの開発に取り組む。販売管理・在庫管理・購買管理を核とする統合業務パッケージ「AURORA(アウロラ)」を発表したのは同年秋のことだ。ギリシャ神話で「暁の女神」を意味する製品名を冠したこのパッケージは、小嶋氏が長年取り組んだJavaではなく、PHPで開発されている。



小嶋 篤氏
代表取締役社長
CEO

「Javaは言語構造として非常に複雑になりすぎた感がありました。その点、PHPの方はマルチプラットフォームへの配布やメンテナンスが容易であり、かつPHPの世界ではまだ業務系のパッケージ製品があまり提供されていないことに着目して、開発言語にPHPを選びました」(小嶋氏)

「AURORA」に続き、2007年秋にはやはりPHPで企業情報ポータルを構築するポータルエンジン「HELIOS(ヘリオス、「太陽の神」の意)」、そしてモバイルコンピューティングに対応するエンジン「SELENE(セレネ、「月の女神」)を発表。現在これら3製品は、製品およびサービスの総称として「XB Enterprise2.0」と呼ばれている。

「XB Enterprise2.0」は当初、LAMP環境で稼働する製品であったが(データベースはMySQLであったが、その後PostgreSQLにも対応)、2006年にIBMがSystem i上で稼働するPHP製品「Zend Core for i5/OS」を発表し、System i市場へのPHP普及を重視する姿勢を見せると、すぐに自社パッケージのSystem i対応を考え始めた。そして昨年秋、「XB Enterprise2.0」の3製品は正式に、DB2 for i5/OS(以下、DB/400)を使用するSystem i対

応版を発表したのである。

小嶋氏は今、基幹業務運用の長いSystem iのニーズと、PHPで実現する先進的なWeb対応機能を組み合わせた新しいビジネスモデルを展開しようとしている。

ガジェットを自在に 組み合わせるポータルエンジン

ここで「XB Enterprise2.0」3製品の機能を簡単に見てみよう(図表)。

「AURORA」は、大きく販売管理・在庫管理・購買管理の3つの機能を備え、それぞれに「受注管理」「売上管理」などのモジュールで構成されている。ユーザーは任意のモジュールを組み合わせた導入が可能。財務会計や給与などは、既存の他社パッケージを自由に連携させる。このほか「経費精算」や「勤怠管理」などのモジュールを備えた「総合業務」「インシデント」や「問題管理」などのモジュールを用意した「運用業務」などの機能がサポートされている。

また「HELIOS」は自由にガジェットを配置してパーソナライズするポータルエンジン。独自に用意されたガジェットに加え、Googleなどのネットサービスが提供するニュースや地図、交通

費計算などのガジェットも自在に組み込める。

さらに携帯やPDAに対応し、メール機能を搭載するモバイルエンジンが「SELENE」である。

「XB Enterprise2.0」の各製品はどれも、PHPのオープンソースソフトウェアや他社製品と連携し、パッケージでカバーしていない機能を強化させることができる。

同社ではSystem i対応版の発表に先立って、昨年は各製品の動作検証とDB2/400との連携をテストしている。System iではカラム名が大文字で返ってくるが、「XB Enterprise2.0」では小文字を使用しているため、その変換プログラムを作成するなどして対応した。

またある客先で、System iの業務システムをPHPで開発する案件を受託したのもちょうどその頃だ。この時は、「AURORA」の一部モジュールを組み込むとともに、自社開発のPHPフレームワーク「xbPettiWork」をSystem i上で動かし、実際の開発・実行環境の中で動作やレスポンスを確認したという。

「PHPはネットショップのようなWebアプリケーションの開発に適し、本格的な業務システムの開発には向かないとの指摘もありますが、そんなことはありません。販売管理のような大量のトランザクション処理を実行するシステムの開発に、PHPは十分に耐えられます。またレスポンスを懸念する声もあります。確かにメインフレームレベルの巨大なトランザクションを移行する場合は問題が生じるかもしれませんが、オフコンレベルの処理量では何の問題もないと考えています」(小嶋氏)

ソースコード公開型の ビジネスモデルを実現

現在、System i市場で小嶋氏が考えているビジネスモデルは2つある。1つは「XB Enterprise2.0」をベースに、同社が企業のさまざまに異なる販売管理の独自要件をカスタマイズしていく通常のビジネスモデル。もう1つは、パッケージ製品をソースコードごと提供し、ビジネスパートナー自身の手によるユーザー要件のカスタマイズを可能にすべく技術・開発支援や教育サービスを提供するというビジネスモデルだ。

ルだ。

オープン系市場を含めても、業務パッケージをソースコード公開型で提供するケースはまだ少ない。RPGを使って、各自の業務システムをきめ細かく実現してきたSystem iユーザーおよびそのビジネスパートナーにとっては、RPGと同様に言語構造のシンプルなPHPを使って、あらかじめ用意されたソースコードを個別にカスタマイズしていける製品の登場は、期待値が高いと思われる。同社では技術ドキュメントの整備が整い次第、ソースコード公開型のビジネスモデル実現に着手する計画だ。

さらに小嶋氏が「XB Enterprise2.0」で強調するのは、PHPをベースにすることで、今後業務システムが直面するであろうさまざまなWebニーズに対応していける点である。販売管理システムと、ガジェットを自在に扱えるポータルエンジンの組み合わせは、従来の基幹業務システムをインターネット環境の中でまったく新しい存在に生まれ変わらせる可能性を秘める。

同社のPHPビジネスの今後の展開が注目される。



図表 XB Enterprise 2.0のモジュール構成